

例・集会スケジュール

5/9 (日) 総会 午後2:00 登山研修所

5/16 (日) R.C.T. ヨーモリ谷  
当日 9:00 神戸電鉄箕谷駅  
当番：古賀

5/23 (日) 比良山沢登り集中  
詳細は5/9に発表  
当番：内藤①

5/30 (日) 歩荷  
アイスロード～行者道～  
逢山峠～極楽茶屋  
当日 8:30 阪急六甲駅  
当番：幸内

月

報

神戸山岳会

No. 80

51. 5. 9.

発行 神戸山岳会

神戸市生田区中山手通1丁

目105の9 前田方

編集 星野・片山・長島

— 目 次 —

冬山合宿	1	
A班 冬山偵察報告	田中正裕	1
冬山合宿	田中正裕	4
B班 冬山合宿記録	鮑碧琴	6
南アルプス仙丈岳	長島安代	6
個人山行		7
12月の乗鞍岳	新川利夫	7
行者岳より岩屋観音	新川利夫	8
東多紀アルプス報告	田中正裕	9
比良山・神璽谷	長島安代	9
新年集会	前田浩	10
会員動静		12

## 冬山合宿

昭和50年度冬山合宿は、A・B二班に分かれ、下記のようくに決定されました。

### A 班

- 12月27日(土) 大阪出発(北国22:10発)  
12月28日(日) 神岡～新穂高～白出し出合～涸沢岳西尾根C<sub>1</sub> (2,100m)  
12月29日(月) C<sub>1</sub>～蒲田富士(BASE)C<sub>2</sub>  
12月30日(火)～1月2日(金) 好天日を確認して蒲田富士(BASE)～西尾根～涸沢岳～白出し  
コル～奥穂高岳をアタックして、蒲田富士(BASE)に戻る。  
1月3日(土)～1月4日(日) 蒲田富士(BASE)～白出し出合

### B 班

- 12月30日 大阪発  
12月31日 市野瀬～柏木部落～地蔵尾根 1,983m コル  
1月1日 コル～松峰～地蔵岳コル BC  
1月2日 BC～仙丈岳アタック  
1月3日 下山(同ルート)

### A 班

#### 冬山偵察報告 1975.11.2.

#### 涸沢岳西尾根～奥穂高岳

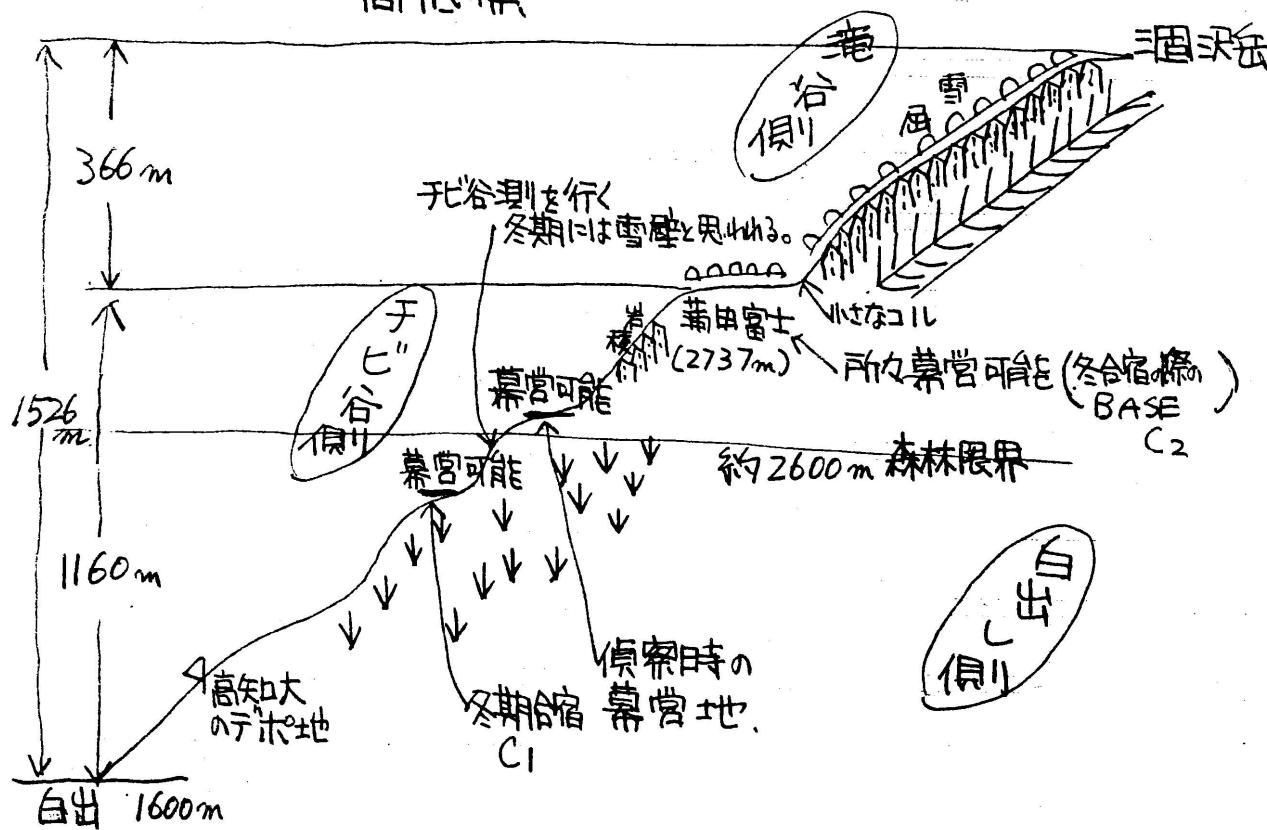
田 中 正 裕

冬期に穂高へ登るのに、よく利用されているルートであるが、資料が少なく、この目でルートを見たく思い、11月の連休を利用して、11月2日、3日と偵察を行なった。

白出から見上げる西尾根は蒲田富士まで一気に上がっている。西尾根の取り付きは、白出しを渡った所の槍平へ行く道の途中からブッシュの中に入ると踏み跡がみつかった。(この取り付きを捜すのに時間がいった。)

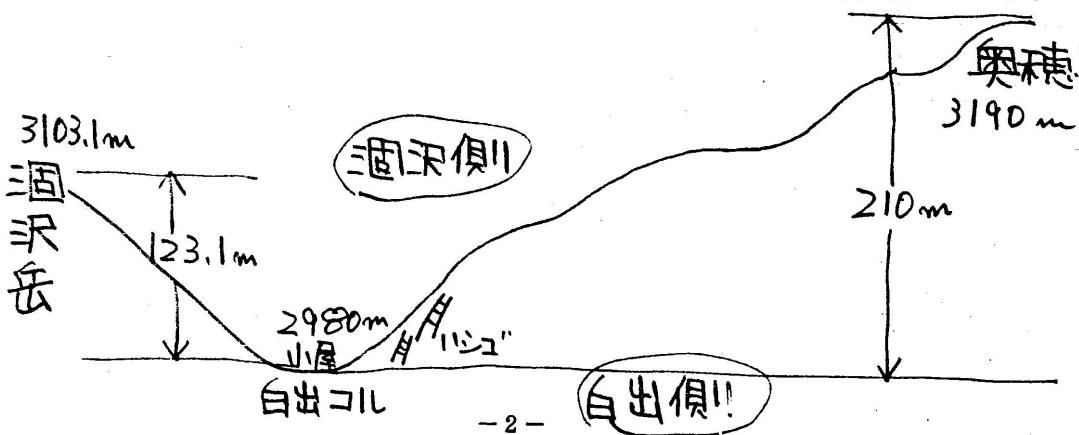
そこからは次の図の通りである。

## 高低標



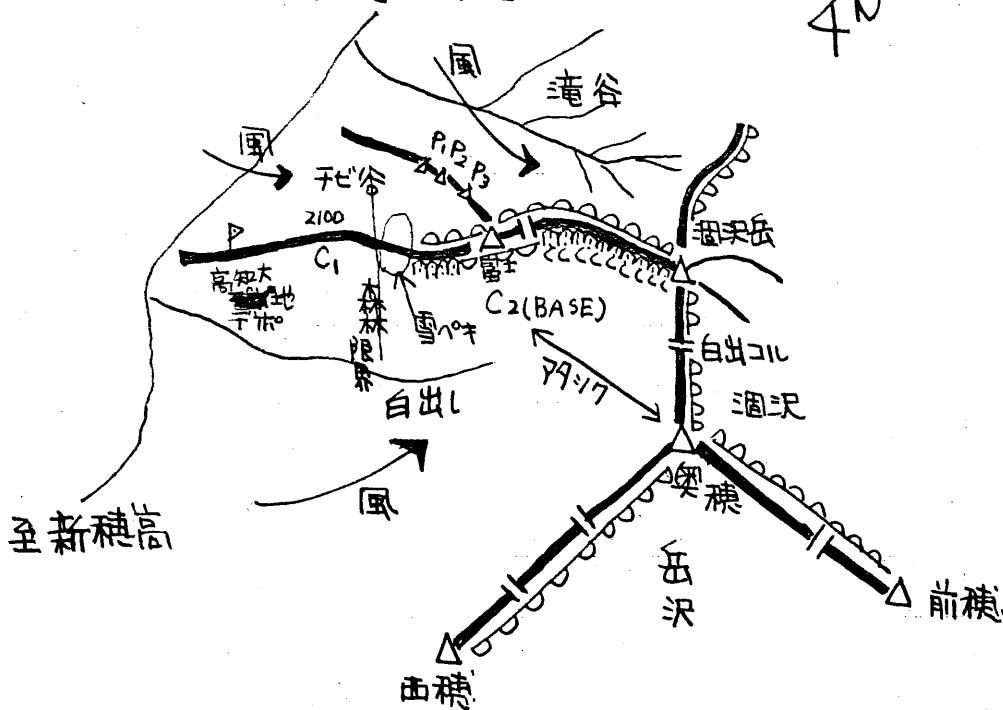
全体的に急登である。森林限界の森林帯では特に急である。 $C_1$  から偵察時の幕営地への登りは、チビ谷側を行く、ここは恐らく合宿時には雪壁になるだろう。蒲田富士への登りの岩稜は、白出し側に行く。蒲田富士は稜線が細く冬期には両側に雪屈が発達するそうなので極力注意を要する。しかし所々に幕営可能な所もある。コルから涸沢 Peak へは凹との岩稜の根元位を登れる様である。白出し側は急な斜面である、チビ谷側はほぼ垂直的に切れている。

西尾根の末端部は涸沢岳から北穂高岳の縦走路の合流点で終っている。(涸沢槍への下り。)



# 冬期予想概念

4N



我々の偵察は、(1日目)新穂高ー西尾根(2,600m)、(2日目)西尾根ー滝沢岳ー白出コルー奥穂ーザイテングラードー横尾、(3日目)帰神。

## 偵 察 時 間

11月1日 新穂高温泉 7:15

白出沢出合 9:55

偵察時の幕営地 PM 5:00

2日 出 発 7:00

蒲田富士Peak 7:40

滝沢岳 Peak 10:25

奥穂の小屋 10:50

奥穂の小屋 11:50 → 奥 穂 12:40

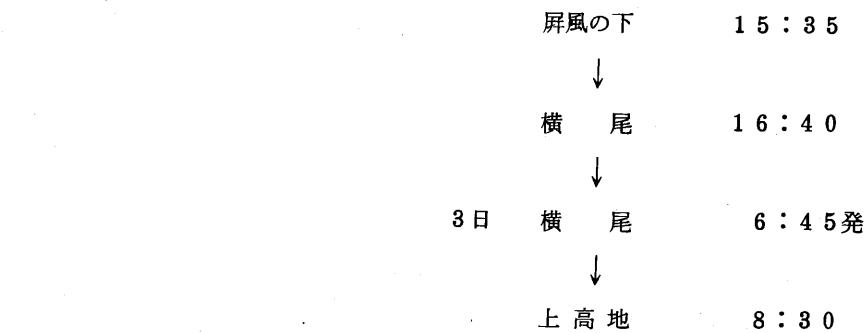


小 屋 13:15



滝沢小屋 14:40





member : CL. 野上① SL. 金田, 幸内, 田中

## 冬 山 合 宿

### 田 中 正 裕

冬山合宿の計画作成が、ギリギリまで決まらなかったので、これからもう少し余裕を以って計画していくみたい。僕にとって2年目の冬山は少し向上を求める事が出来た様に思うが、冬山本来の恐ろしさは昨年と同様に味わう事が出来なかった様だ。

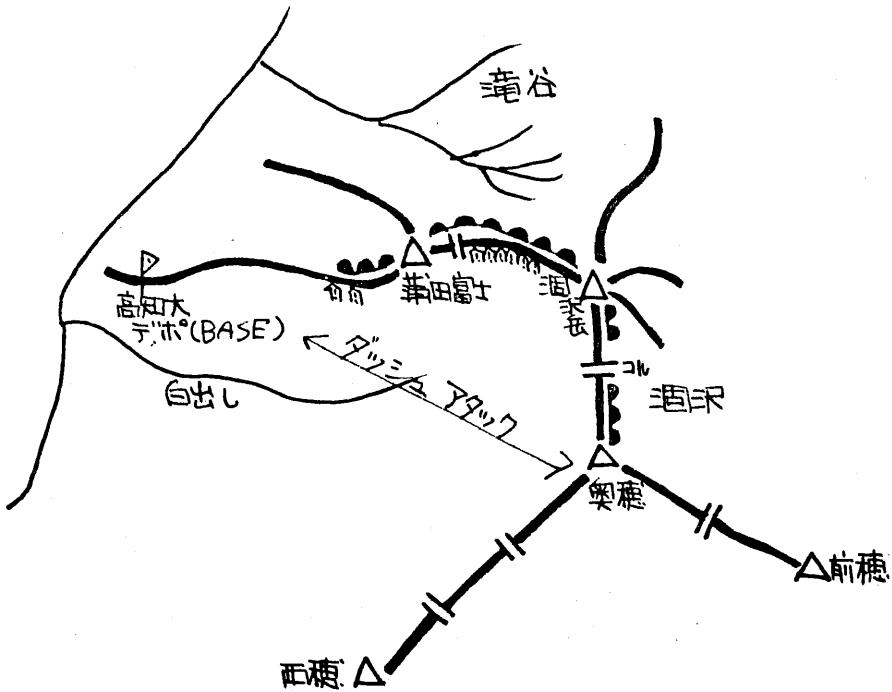
入山直前に、又しても僕は、流行の風邪をひいてしまい、最善のコンディションを持っていけず、非常に苦しい入山となった、最悪の体調の事が冬山に対する恐怖心を一層に強く全身に感じられてくる。しかし、僕の心とは裏腹に春を思わせるこの天気は僕を励ましてくれる様であった。

新穂高を出発すると、すぐに膝位まで雪があったが、トレールが付いているので楽に白出し合まで行けた。新穂高へ入るパーティーのほとんどが槍平と涸沢岳西尾根に集中している様である。秋に偵察しておいたので、すこしばかり気が楽である。やはり冬山だけに偵察時の雪の量とは格段の差がある。笠ヶ岳の奥壁は正に外国の山を思わせる。新穂高の出発が遅れた為、予定のC<sub>1</sub>に入る事が出来なくなり、高地大のデボ地にC<sub>1</sub>を設営する。天気は明日1日もつのがやっとで明後日からは荒天となる予想の為、明日に蒲田富士までC<sub>2</sub>を上げても、明後日からの荒天が連日繰り返す奥穂への登頂のチャンスをつかめるか／どうか／分からないので、明日の好天日を利用して明朝早くC<sub>1</sub>からアタックすれば出来ると、偵察してあったので確信することが出来た。ビバークの準備をして、ダッシュアタックを敢行した。蒲田富士までの登りは雪が笹やハイ松を隠くしていて秋の時よりも登行がずっと楽であった。蒲田富士に来ると、白出し側がよく切れている。滝谷側の雪屈は3m位で心配していた程出てなくて安心した。コルから上になると風は急に強くなる、厳冬の滝谷を見るとよけいに風が身に凍みる。奥穂小屋はスッポリ雪の下になっている。奥穂の登りは更に風が強くアイゼンがよくきしむ。奥穂では、記念撮影する。前穂、西穂から登って来るパーティー

も登頂出来た喜びか？凍える頬をほころばしてうれしそうである。我々も長居はできず、5人アンザイレンして奥穂を下る。

### 昭和50年・51年度 冬山合宿概念

偵察時の予想概念が冬山合宿(S.50.12.29)と相違点がありましたので訂正いたします。



- 蒲田富士の下の雪壁は雪稜でした。
- 雪屈は3m位で、滝谷側だけに張り出していた。
- 蒲田富士のコルからの登降は凹を通らず、すべて雪屈に注意しながら稜線通しである。

member : CL.野上①、SL.金田、間島、幸内、田中正

B 班

冬 山 合 宿 記 錄

鮑 碧 琴

12月30日 大阪 21:04

31日 伊那北駅 7:15 = 柏木部落 8:00 ~ 松峰 13:10 ~ 地蔵岳 とつき  
(2,300m小屋)

気温: 16:00 -5°C, 18:00 -6°C

1月1日 出発 7:15 ~ 丸山の頭 9:30 ~ 仙丈頂上 12:00 ~ 小仙丈頂上 14:00 ~  
小仙丈岳 2,800mの所 15:10

気温: 4:30 -5°C, 18:00 -8°C

2日 出発 8:10 ~ 北沢小屋 10:10 ~ 八丁坂 11:37 ~ 戸台の川原 13:30

気温: 4:30 -12°C

3日 出発 7:30 ~ 戸台 8:25 ~ 伊那北駅 10:00

気温: 5:00 -6°C

南 ア ル プ ス 仙 丈 岳

長 島 安 代

積雪が少なく天候にも恵まれ予定よりも早く計画を終えることができたのは幸運だったと思う。

一日目は雪が少なく距離をかせいで松峰の崩壊小屋で冬山らしからぬ夜を送った。

二日目になると樹林帯に入りアイゼンをつけて仙丈岳への急な傾斜を登る。樹林帯を越えてから

も、危険な箇所はほとんどなく、風にあおられながらも昼には仙丈岳頂上を踏むことができた。

予想よりもスムーズに頂上まで来、後は小仙丈から戸台へ下山することに決まった。下りでも稜

線は風が強く、小仙丈の肩にテントを張る時は、突風に苦労した。仙丈岳頂上付近では雪煙が舞

っていた。新人も冬山の一端を味わうことができたのではないだろうか。

三日目はトレースをたどり北沢峠から戸台川へと下り、最後の夜はコンパで終わった。

参加者 : C L . 三浦 S L . 野上③

岸本、土居、長島、魚谷、鮑

## 個 人 山 行

### 12月の乗鞍岳

新川利夫

まるで初々りを想像させる題目だが、此の乗鞍岳は信州の山では無く標高僅かに993米、大峰の前衛とも云うべきヤブ山である。

最初5万分の1の「山上岳」を展げて何処か適當な所は無いものかと見て居る内に、端の方に乗鞍岳と云うのがあり、隣りの「高野山」と合して見ると十津川への国道169号線の天辻峠から東に天ノ川に沿って武士岳・高城山と続いて居て所謂大峰前衛の山脈となって居る。名前も良いし前日から出掛けて十津川の温泉で泊り、翌日乗鞍から武士岳・高城山へと縦走し大峰主脈の雪景色を眺め様と思い12月20日大阪一王寺一五条とのんびりとローカル線を乗継ぎ五条からバスで天辻峠を越し十津川渓谷を約3時間ばかり下った湯泉地温泉の民宿に泊った。

翌21日一番のバスで坂本迄亦2時間掛けて引返す。（山よけを目指すなら賀名生の南、城戸に西吉野温泉と云う鉱泉があるので此処に泊れば良い。）

上野地あたりより小雪がチラつき出し、坂本に下りた時は本格的な降雪となって居た。雪の中を天ノ川に沿って塩谷の部落に登ったが、それからは植林の道が縦横にあってややこしい。踏跡を辿りながら図上の道を外れ一つ東側の尾根に取付き稜線に出る。道を求めてウロウロする内にポカッと道に合う。何うも地図とは違う様だがそれを伝い乗鞍岳の肩の所からブッシュを漕いで山頂らしき所に出る。展望は皆無、樹に乗鞍岳と書いた板ぎれがなければ知らずに過ぎてしまう所である。武士岳に向って尾根を辿り掛けたが相変らず踏跡は繁って居り雪の中のブッシュ漕ぎは全く最底である。途中でいや気がさし植林帯を見付けて北に一直線に下るとやがて道が現われ山腹を巻きながらどんどん下って行くと本谷の部落の手前で林道に飛出した。高度が下るにつれ雪は小雨となり、立川渡迄グルグル迂回する林道を通ってバスに飛乗る事が出来た。

12月21日 温泉地(6:50)ー坂本(9:25~9:35)ー乗鞍岳(12:00)ー

立川渡(14:40)



## 行者岳より岩屋観音

新川利夫

メンバー：新川、野上（博）

正月3日天気は良し、おせち料理と酒を持って新春登山と云う事で生野の行者岳（786米）から岩屋観音へと歩いて来た。行者岳への登りは図上の立野から道がある様になって居るが、途中迄植林の道があるが廃道となって居て稜線迄かすかな道跡を拾いながらのブッシュ漕ぎである。コルから山腹を廻る道も大分繁って居り山口の谷から登って来る道を合すと俄然良くなる。多々良木からの道も廃道となって居る様で、それとは分らない。結局、山口一行者岳一岩屋観音のルートがハイキングコースとして一般に登られて居る様で道も整備されて居る。屋根筋から仰ぐ行者岳はスケールは小さいがそびえ立って良い格好をして居る。展望も良く播但国境の山々と但馬の雪山が美しい。頂上には電波反射板が建って居た。岩屋観音は正月で大分お参り客があった。

酒を温め微醺を帶びて岩屋谷を下る。

1月3日 姫路（8：29）—新井（10：08）—稜線（11：40～12：00）—行者岳（13：05～13：15）—岩屋観音（14：00～14：30）—観音橋（15：10～15：15）—生野（15：25～15：48）—姫路（16：56）

## 東多紀アルプス報告

田中正裕

S.51. 1月9日～1月10日

メンバー 幸内、田中

9日、我々は、宝塚18：02発、和田山行の鈍行に乗り込む、篠山口下車、国鉄バスに乗り本篠山で火打岩行のバスに乗り換える。火打岩バス停にて寝る。

10日、火打岩を出発、村の道からやがて林道へと入って行く、畑川に添って登って行くと硅石採掘所を通りすぎる。立派な林道は容易に大嵐峠へと導いてくれる。この林道は大嵐峠からさらに伸び西紀町へと続いている。【猪鹿の通りも難しいとされていた大嵐峠は昭和四十二年春以来、自衛隊の施工により難工の末、同四十六年秋延長4,500mによって三丹と阪神を結ぶ】、大嵐峠はキャンプ地に指定されていて、水場や碑などが設けられている。【夏期にはバスがここまで運行しているそうである】、大嵐峠から小金ヶ岳へと行く。登山道は良く整備されており、途中から所々に岩が道に露出しているので、なだらかで単調な山に色どりを加えている。大嵐峠に引き返し三岳

へと登る。小金ヶ岳にくらべて熊笹が密集しており、ある所は背の高さ位あるが、道は極めて明瞭である。三岳の山頂は立派な地蔵さんの祠がある。三岳を下ると右手側に栗柄へと降りる道がある。この道はひじょうに顯著であり恐らく栗柄の人々が祭りの際に三岳に行くのに利用する為に整備されたのではないかと思う。西ヶ岳に登り、西の稜線へと進むと道は今までとうって変わり、排道の様な感じである。下板井へ向っている稜線には薄っすらと道が続いている。我々は五坊谷池の上流の栗柄の茶畠に出てきた。（本当は坂本に降りる予定だったが読図を誤った。）

今の季節なので道が薄っすらと分かるが深緑の季節なら地図たよりのブッシュこぎとなるであろう。（西ヶ岳より下板井への稜線は）

火打岩 7：20 大嵐峠 8：00 着 8：25 発 小金ヶ岳 9：10 着 9：15 発 大嵐峠 9：40  
三岳 10：10 着 10：45 発 栗柄への分岐点 11：10 西ヶ岳 11：30 着 11：45 発  
至藤岡奥と稜線との分岐点 12：20 栗柄の茶畠 13：20 着 13：35 発 ドライブウェー  
一板井バス停 15：16

## 比良山・神璽谷

昭和51年1月14日～15日

長島安代

メンバー：幸内、田中、長島

22：00 湖西線比良駅着

みぞれ混じりの雪が降っている。

22：50 比良リフト

ここから沢に入る

23：30 就寝

07：50 起床、出発

一晩で30cmほどの積雪。わかんをつける。

08：10 二俣

シャカ谷との分岐と思い、左側の沢に入る。これがまちがいのもと。雪が深く一向に進まないのでアイゼンにかえて沢の中央を行く。どうやら違う沢に入ってしまったらしいが、ひき返すわけにもいわず、強引につきあげる。

11：30 沢は抜け出た。

雪が深く、シャクナゲで歩きにくい。

12：40 稜線、比良ロッジが見えている。

13:20 トレースを見つける。  
13:40 ガレ場、神墨谷との合流点。  
14:00 北比良ロッジ。  
14:30 出発  
15:15 金糞峠  
17:00 比良駅

## 新 年 集 会

前 田 浩

恒例になっていた冬山の反省会のあと的新年集会を、久し振りに三宮の前田宅で開いた。反省会は午前中に登山研修所で開き、その足で会場の前田宅に赴いて開く。午後1時の開会予定の時間には大方の顔ぶれも集まり四つに分かれたすき焼鍋を囲んで、和気あいあいの中に、よく食い、よく呑み新旧の話がなされた。この雑談の中から『但馬をめぐる山々』改訂版発行の話が出て、年輩の会員からは積極的な意見が、逆に若い会員からはタジタジとした消極的意見が出るなどしたが、大勢は、やろう！という気分で具体的の方針は15日に再度集って話し合うことになった。

### 当日の出席者

片山英一、前田 浩、新川利夫、大槻正之、川本 勉、岡崎群治、岸本光弘、内藤正司、武田 稔、宮本朋之、土居健次、同 夫人、南みちよ、三宅信道、藤本卓民、田中享三、長島安代、田中正裕、幸内義孝、三浦靖男、鮑 碧琴、魚谷 勝、蘿本維都子、岡田政一、小島勝俊、丸屋信雄

(以上26名)

当日欠席通知のあった会員からの連絡は次のとおり。

### 島 田 文 雄（敬称略）

残念ながら欠席します。商取引先の会合がありますので、あしからず、ご了承下さい。新旧会員の皆さんによろしく。ますます登山にご精励されんことを祈ります。

### 三 宅 康 市

経過が不良で再びギブスの世話になっています。予定は早ければ1月末か2月初めに退院できれば良いがと思っています。皆さまによろしくお伝え下さい。

### 小 坂 和 己

9日夜より兄弟家族連れて神鍋スキー場へ繰り出すことになっております。勝手ながらお許し下さい。

## 乾 昌 弘

正月は雲取山へ登りました。普段は少年野球のコーチをしていますので、トレーニングのみは充分です。合宿と共にすることを楽しみにしています。（在 東京）

## 河 原 武 夫

昨年暮、亡父庄治のため、ごていねいなお供えを頂き有難うございました。当日は仕事のため出席できません。

## 小 川 集 大

昨年暮からマッターホーンの横でスキーを滑り、ケーブルでモンブランに登りました。モンブランのスキーは雪が落ちつかず、断念しました。

## 星 加 弘 之

出席したかったのですが、大阪方面へどうしても出席しなくてはならない用事がありますので失礼します。

年末の28日営業所と自宅とも引越し、正月も返上、荷物の整理に追い廻されて、やっと7日から仕事始めのような状態です。皆さまによろしくお伝え下さい。

## 植 原 清 明

勝手しています。来年（51年）から出席させてもらいます。

野上芳宏、野上 博、野上哲男の3君はご令妹さまのご不幸で欠席。

## 御 礼

新年会に次の方々から清酒や金一封のご寄贈を頂きました。誌して御礼に代えさせて頂きます。

清 酒 2本	河原武夫、植原清明
同 1本	釜本孝彦、内藤正司
金 12,000円	片山英一
金 5,000円	宮松 晓
金 4,000円	新川利夫、三宅信道
金 2,000円	大槻正之、岡崎群治、岸本光弘、宮本朋之、藤本卓民、川本 勉
金 1,000円	武田 祯、岡田政一
みかん 1箱	星加弘之

## 会計報告

以上のような寄付を頂きましたので当日の諸経費￥44,700を支払い、尚￥20,300が残りましたので、会計へ寄付金として繰り入れさせて頂きました。

## 会員動静

慶

### 会員のおめでた

小島勝俊君

去る11月第三女誕生。三児の父になりました。ということです。

併せて、東京勤務から大阪勤務となり、12月着任。西宮市に住まいを変えるとのことです。

### 御結婚

内藤正司君

去る2月29日、県民会館にて挙式されました。奥さんは京子さん。山にも益々励んでおられるようです。

弔

### 会員のご家族にご不幸がありました

新川利夫君

ご尊父、鹿治さん(82才)が10月2日ご逝去。4日の告別式に岸本、大槻、岡崎、野上博、長島らが奉仕しました。また、前田、川本、小川、小坂らがお詣りしました。

木村寅次郎君

ご母堂、てうさん(84才)が11月10日ご逝去。岸本、岡崎、前田らが12日の告別式にお詣りしました。

河原武夫君

ご尊父、庄治さん(78才)が11月22日ご逝去。

三宅信道君

ご母堂、房恵さん(68才)が12月18日ご逝去。岸本、宮松、岡崎らが19日の告別式に参列しました。

以上の方がたのご靈前に、会からささやかなご香奠をお供えしました。

## 新川利夫君から

去る10月にご尊父を亡くされた新川君より、次のような懇篤な御手紙と共に、金20,000円を寄せ頂きました。

「謹啓 御尊家ご一様には その後ご清祥のことと御慶び申しあげます。

過日亡父死去の節には御多忙中にも拘らず、御丁寧なる御弔慰を賜わり洵に有難く厚く御礼申し上げます。お蔭をもちまして、滞りなく満中陰の法要を相嘗み、忌明け仕りました。

就きましては、満中陰の供養の印を考えましたが、僅少では御座居ますが、神戸山岳会に寄付させて戴く事にしました。早速拝趣の上親しく御了解戴く可き筈では御座居ますが、略儀ながら書面を以ちまして、御礼のご挨拶を申し上げます。

敬 具

11月23日

」

\*\*\*\*\*

## 編集後記

\*\*\*\*\*

神戸山岳会も総会の季節となり、私達にとっても一年間の締めくくりの時が来ました。

月報は会員の山行、情報などを皆さんにお知らせするためのものです。活発に動いている時は、月報も盛りだくさんになりますし、その反対の場合なら中味のないものになってしまふでしょう。皆さんの山行から離れては月報は成り立ちません。

皆さんのすばらしい山行を自分だけのものとせず、惜しまず月報という情報交換の場を活用していただきたい。

新しい役員も新鮮な意欲に燃えている様です。



## 原稿提出先

田中正裕 〒661 尼崎市武庫元町3丁目9-11

古賀英年

井上